

平成31年3月2日(土)

蟹ヶ谷古墳群現地見学会

主催：川崎市教育委員会
協力：川崎市内古墳発掘調査団（鶴見大学・専修大学文学部・
日本大学文理学部・多摩川流域遺跡群研究会）

ごあいさつ

平成24年度から5か年にわたり実施した蟹ヶ谷古墳群の調査研究では、前方後円墳が川崎市内に現存することを確認しました。こうした成果の一方、これまでわかっていた3基の古墳の周囲にも新たな古墳がみつき、蟹ヶ谷古墳群にはまだ多くの未解明部分があることが課題として判明しました。

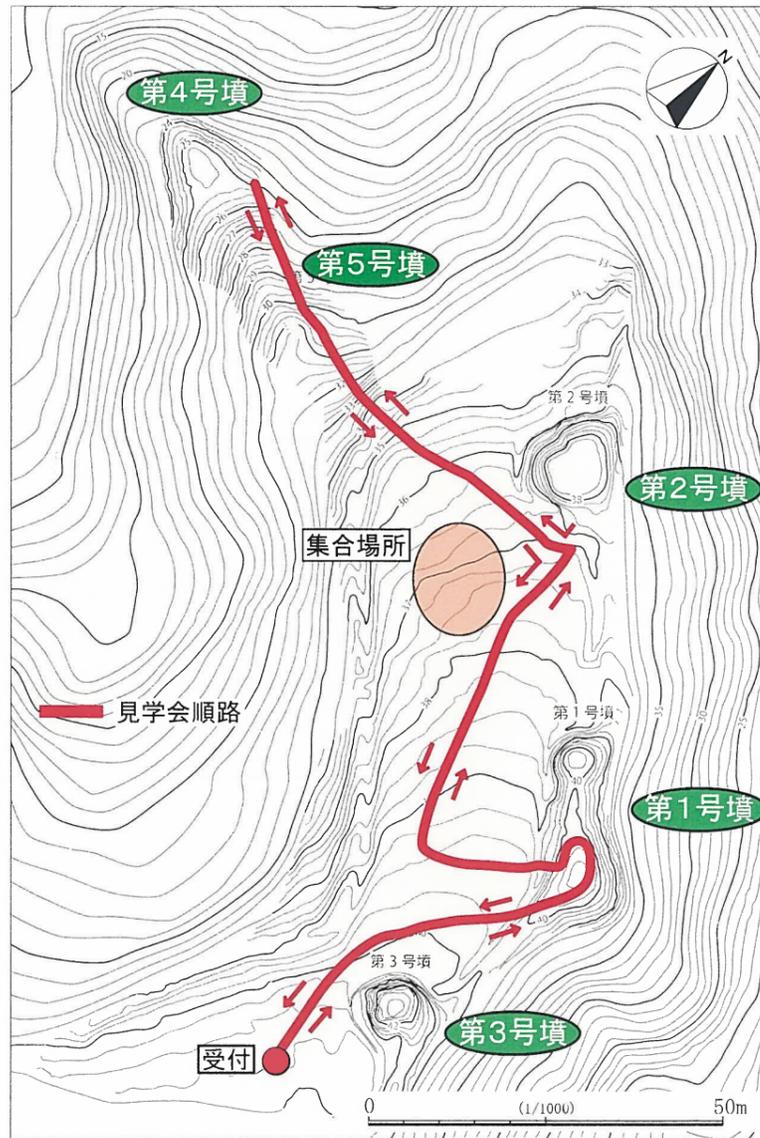
こうした成果と課題をふまえ、川崎市教育委員会では、蟹ヶ谷古墳群の調査を継続してその内容を明らかにするために、川崎市内古墳発掘調査団（鶴見大学・専修大学文学部・日本大学文理学部・多摩川流域遺跡群研究会）とともに昨年度から4か年事業で、調査を実施していきます。調査の進展のなかでわかった情報は、現地見学会などを通じて市民の皆様にお知らせし、川崎市域の遺跡の保存活用につとめていきます。皆様のご理解とご協力をいただきたくお願い申し上げます。

蟹ヶ谷古墳群とは

神庭特別緑地保全地区（高津区蟹ヶ谷97-5）内にある古墳群です。平成24年度からの調査により、全長約27mの前方後円墳1基（第1号墳）と直径約18mの円墳2基（第2・3号墳）のほかに、非常に低いマウンドをもつ円墳2基（第4・5号墳）の、合計5基の古墳があると判断しました。1号墳は、出土した埴輪の年代から、6世紀後半の古墳時代後期から飛鳥時代初期にかけて築造されたと考えられます。その他の古墳の年代は、時期を特定する資料がなく、いまだ不明です。井田・蟹ヶ谷地域を治めたリーダーたちが葬られた古墳群です。



第4号墳の墳頂から現れた須恵器大甕



古墳及びトレンチ配置図

平成30年度の調査の概要

第1号墳

平成25・26・27年度の発掘調査で、前方部の隅を検出したことから、前方後円墳であると判断しました。しかしあまりにも墳丘の削平が激しいために、今年度、さらに前方後円墳であるとの確証を得るために再調査を実施しました。

現在、第1号墳の真上にあけたトレンチにおいて、前方部と後円部との関係を調査で確かめようとしています。

また今回、埴輪の破片が墳丘からも出土しています。

第1号墳については、今後も調査を継続していきます。

第2号墳

蟹ヶ谷古墳群の中では、比較的残りが良いと思われる円墳です。これまでの調査により、直径約18mと推定されます。本年度は、墳丘の頂部に調査区を設定し、埋葬主体部の検出につとめています。

また、南側に設定したトレンチでは、墳丘の盛り土の工法がよく観察できます、外側に堤状の盛り土をつくり、内部を水平に積んでいく様子がよくわかります。

第4号墳・第5号墳

第4号墳では、墳頂から須恵器の大甕がつぶれた状態で出土しました。しかし、今年度の発掘調査では埋葬部がないことが確認されました。周囲の斜面には横穴墓があることもあり、祭祀を行った場所である可能性が高くなってきました。

第5号墳は、地ぶくれ状の自然地形で、古墳ではない可能性が浮上しました。



第1号墳 調査区（南東から）



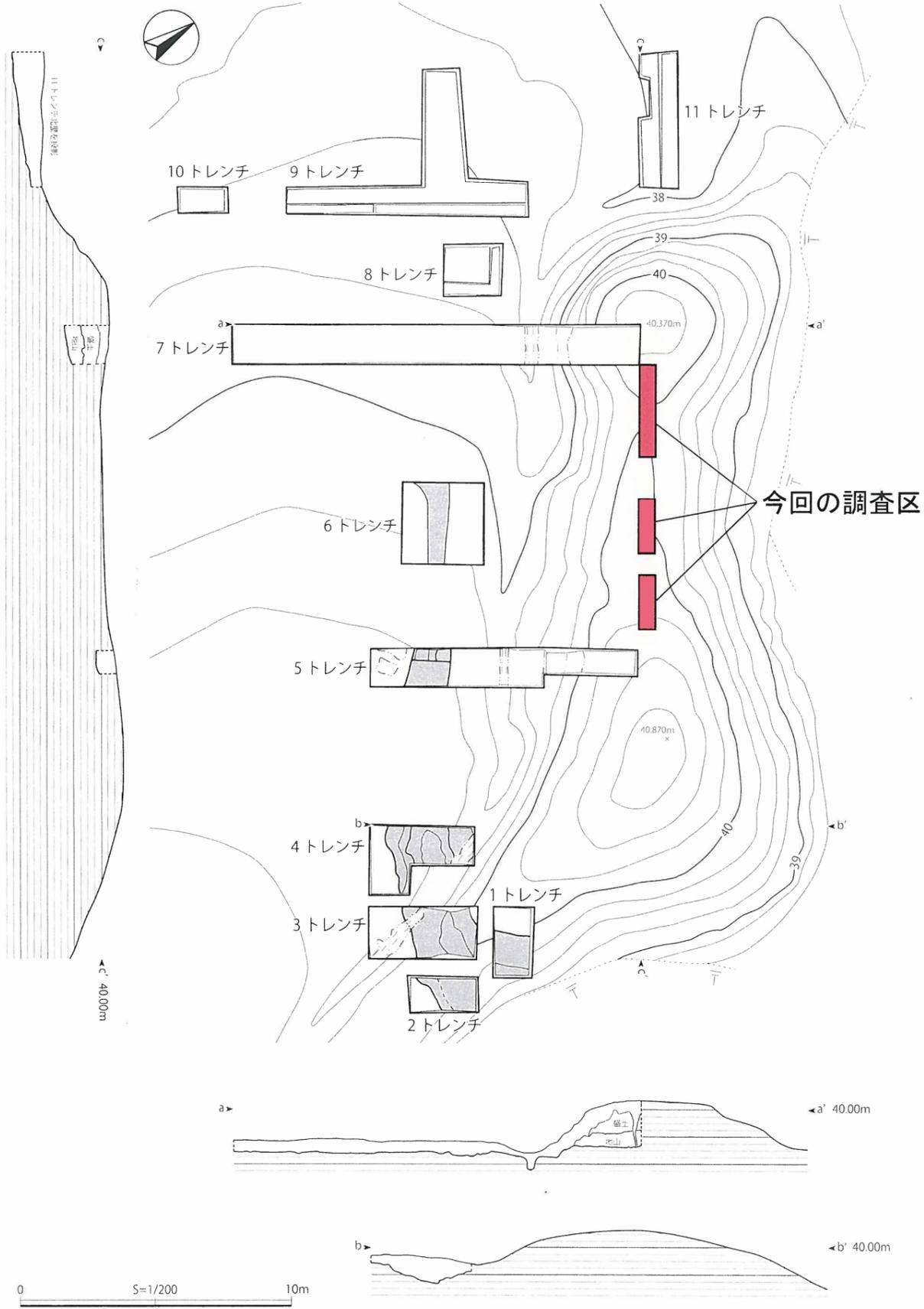
第1号墳 調査区（東から）



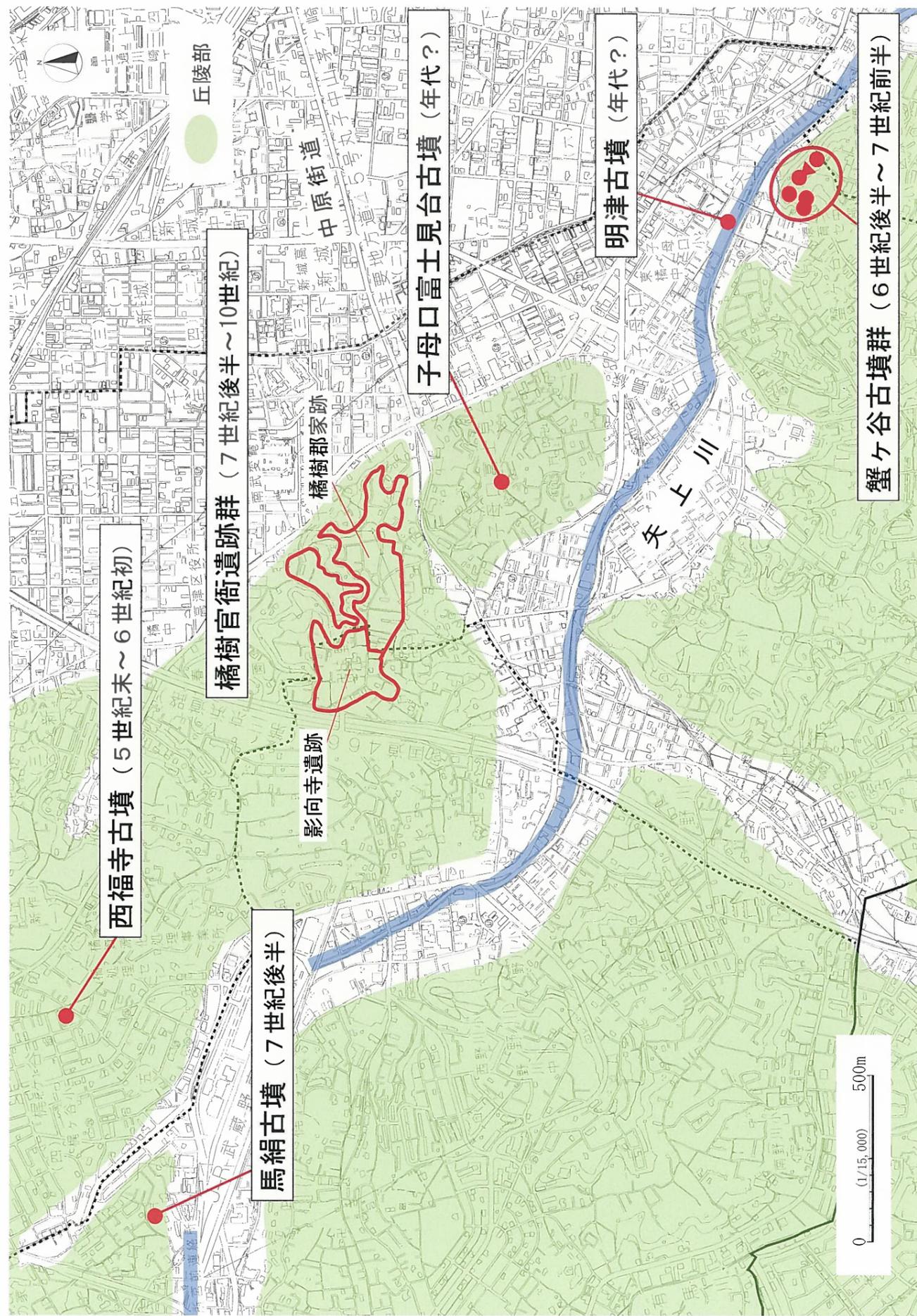
第2号墳 調査区（南から）



第4号墳 調査区（東から）



第1号墳トレンチ配置図



蟹ヶ谷古墳群及び主要遺跡・古墳分布図